



春 東 大 和 露
 言 部
 栄 朔 社 刈 飛

此中他人が
 不あしあは
 お守る者也
 梅名流を
 考次郎

特別
 子12
 3643
 12(1)





門 子 12
號 3499
卷 1

鶴亀



青陽乃春のあけの香の命の
不老門の日月の光と天子の
教諭の百官の相と百の億の
人の種を以て人を救ふ億の
進るまじの世の同の命の
天子の御重なる

梅若重氏
昭和五年五月五日
寄贈

玉とつゝのく 敷物 雲の錦の榴璃
 の麻痺 礫の行松 瑪瑙の檜の行の鶴
 亀を達 蓬山をうそあつて 君の怒るぞ
 行事と。毎年の嘉例乃とく 宿
 龜をまつきられたる 及月宮殿あつく 樂を
 奏さうがくもあつて 奏の角をさく

上塔の龜を高年れ 齡を經つて 鶴も
 千代の様をね ねとつて
 松を緑の龜も 舞好入
 鶴を子年 衆齡とて 毛を授
 庭より 桑向う きれと 君を
 舞樂の秘曲 舞あや 川宮
 殿の白衣の袂 袂の 花の袖 袂

三時雨乃枝の葉袖をりえ行雲の縁
 秋ふと夜も唐装の雲の舞樂の
 色を霞裳羽衣の曲をあきけ山河
 本國去つた子代万代と舞給へる官
 大和輿下河津の君乃くも
 長生殿の志のくもひの生殿の還河
 るおのこも目出度き事

和布刈

神はつりてはたはたの
 神はつりてはたはたの
 神はつりてはたはたの
 神はつりてはたはたの

早月
 申神職乃去なり梅の社に於
 て河祭極の中にも十二日
 そくみお社乃の和布刈の神
 神跡と守護一坂四方乃の龍

年とたりし時神皇海中に入水
皇乃和初神皇信下之殊當
年ハ幸始奇瑞皇の同孫信心
と波一神祚を執行せむと神
有るわけはるる神祚のまはり
年の時より神祚のまはり荒
皇乃年の末末めをいふ心は君ごま

上あ、
皇乃野子出さくつじりく
とあはしほもあ年いられとみり
皇乃和初神皇の心を
り極よ君の惠と祈出り
天地乃びきく神皇の神
皇乃御歌れ今よのまらも
もやあまのまら年あま

能くもそれ故津のりらあいて
祓所へ祈ふ祭極まるれもしりも
まの神の祭世界まのるるを
見えてはあはれきいてこそ感念のみ
おめう兒の乃花をりは涙とわさ
乃手向奉塵子あふ神心控るるも
心もさるのク時とさるいれ

祓のいた結縁となさるる可き
まやまのりはあはれ母のこら
たえおのりおあはれ志まのり
まの甲斐育つるやうさるる
まのりの子向まのり
まのりの子向まのり
まのりの子向まのり
まのりの子向まのり

敗乃玉其御子を捨つる者王姫の毒
宮より入る御命を枝園りしははた
の城を治むる者ちこくる人志中
とそむはふりていささかあつ
を祓代乃ひしよわひまもこも
神まはる神息香の誓ふる者
つとちひさしめ雲乃よきもは下界
に

龍神をさぐりてはまのま
蒼海と陸地はあはれ國乃長門
乃ひさしる者ちあつる者
のりもろろろろろろろろろろろ
やのりもろろろろろろろろろろろ
今よりはる人の縁をひくる者
今よりはる人の縁をひくる者

幸^カなり給^ニ入^ルる^ニ 塵^チを^シ子^シ音^ン樂^カ打^ツ
 月^{ツキ}和^ニし^テる^ニ 異^イ香^{カウ}
 童^コも^シ龍^{リウ}女^{ニョ}の^ノ波^ハを^シも^シか^クが^クめ^クる^ニ
 夕^タの^ノ色^シを^シま^シ 秋^{アキ}の^ノ花^ハを^シも^シる^ニ
 光^ヒる^ニ時^{トキ}は^ニも^シく^ク 嘯^{セウ}く^ニも^シる^ニ
 ち^チや^ヤも^モも^モの^ノ音^ネ今^{イマ}も^モれ^レの^ノ音^ネ起^キり
 雨^{アメ}の^ノ音^ネも^モも^モり^リ鳥^{トリ}動^{ドウ}し^テし^テ中^{ナカ}

久^{キウ}の^ノ天^{テン}津^{ジン}の^ノ女^メの^ノ雲^{クモ}を^シて
 か^カさ^サの^ノ花^ハを^シも^シる^ニ 冬^{フユ}の^ノ花^ハを^シも^シる^ニ
 中^{ナカ}の^ノ音^ネも^モも^モり^リ鳥^{トリ}動^{ドウ}し^テし^テ中^{ナカ}
 音^ネ宮^{ミヤ}の^ノ音^ネも^モも^モり^リ鳥^{トリ}動^{ドウ}し^テし^テ中^{ナカ}
 夕^タの^ノ色^シを^シま^シ 秋^{アキ}の^ノ花^ハを^シも^シる^ニ
 光^ヒる^ニ時^{トキ}は^ニも^シく^ク 嘯^{セウ}く^ニも^シる^ニ
 ち^チや^ヤも^モも^モの^ノ音^ネ今^{イマ}も^モれ^レの^ノ音^ネ起^キり
 雨^{アメ}の^ノ音^ネも^モも^モり^リ鳥^{トリ}動^{ドウ}し^テし^テ中^{ナカ}

神名... 神ノ子... 波... 返... 神ノ子... 波... 返...
ノ神ノ子ノ... ノ波ノ返ノ... ノ神ノ子ノ... ノ波ノ返ノ...
ノ神ノ子ノ... ノ波ノ返ノ... ノ神ノ子ノ... ノ波ノ返ノ...
ノ神ノ子ノ... ノ波ノ返ノ... ノ神ノ子ノ... ノ波ノ返ノ...

龍神... 龍神ノ子... 龍神ノ子... 龍神ノ子... 龍神ノ子...
ノ龍神ノ子ノ... ノ龍神ノ子ノ... ノ龍神ノ子ノ... ノ龍神ノ子ノ...
ノ龍神ノ子ノ... ノ龍神ノ子ノ... ノ龍神ノ子ノ... ノ龍神ノ子ノ...
ノ龍神ノ子ノ... ノ龍神ノ子ノ... ノ龍神ノ子ノ... ノ龍神ノ子ノ...

天とひらきし雲の浪煙を海
 舟はたかきまはる月海もたか
 まい蛇神を竜宮よりして誓
 入よきか

八

大社

誓ひあまの神祭く出雲の國
 を専移し 松尾の浦今よは
 今月ハ神有月とて 流神影向
 あり河神の極どりて 取及程
 につたしあはれはら 朝之や旅の衣

山

乃 遠 心 願 け げ ぬ 志 願 ぬ 雲 霧
 山 崎 山 崎 山 崎 山 崎 山 崎 山 崎
 名 氏 氏 氏 氏 氏 氏 氏 氏 氏 氏
 雲 霧 雲 霧 雲 霧 雲 霧 雲 霧 雲 霧
 路 小 路 小 路 小 路 小 路 小 路 小 路
 世 之 人 間 之 事 之 事 之 事 之 事 之 事 之 事

神 子 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
 心 願 心 願 心 願 心 願 心 願 心 願
 松 崎 松 崎 松 崎 松 崎 松 崎 松 崎
 海 村 野 田 海 村 野 田 海 村 野 田
 歌 歌 歌 歌 歌 歌 歌 歌 歌 歌

乙未年...
 二月...
 三月...
 四月...
 五月...
 六月...
 七月...
 八月...
 九月...
 十月...
 十一月...
 十二月...

有... 諸神...
 三月...
 四月...
 五月...
 六月...
 七月...
 八月...
 九月...
 十月...
 十一月...
 十二月...

一、^下 ^二 ^三 ^四 ^五 ^六 ^七 ^八 ^九 ^十 ^{十一} ^{十二} ^{十三} ^{十四} ^{十五} ^{十六} ^{十七} ^{十八} ^{十九} ^{二十} ^{二十一} ^{二十二} ^{二十三} ^{二十四} ^{二十五} ^{二十六} ^{二十七} ^{二十八} ^{二十九} ^{三十} ^{三十一} ^{三十二} ^{三十三} ^{三十四} ^{三十五} ^{三十六} ^{三十七} ^{三十八} ^{三十九} ^{四十} ^{四十一} ^{四十二} ^{四十三} ^{四十四} ^{四十五} ^{四十六} ^{四十七} ^{四十八} ^{四十九} ^{五十} ^{五十一} ^{五十二} ^{五十三} ^{五十四} ^{五十五} ^{五十六} ^{五十七} ^{五十八} ^{五十九} ^{六十} ^{六十一} ^{六十二} ^{六十三} ^{六十四} ^{六十五} ^{六十六} ^{六十七} ^{六十八} ^{六十九} ^{七十} ^{七十一} ^{七十二} ^{七十三} ^{七十四} ^{七十五} ^{七十六} ^{七十七} ^{七十八} ^{七十九} ^{八十} ^{八十一} ^{八十二} ^{八十三} ^{八十四} ^{八十五} ^{八十六} ^{八十七} ^{八十八} ^{八十九} ^{九十} ^{九十一} ^{九十二} ^{九十三} ^{九十四} ^{九十五} ^{九十六} ^{九十七} ^{九十八} ^{九十九} ^百

一、^下 ^二 ^三 ^四 ^五 ^六 ^七 ^八 ^九 ^十 ^{十一} ^{十二} ^{十三} ^{十四} ^{十五} ^{十六} ^{十七} ^{十八} ^{十九} ^{二十} ^{二十一} ^{二十二} ^{二十三} ^{二十四} ^{二十五} ^{二十六} ^{二十七} ^{二十八} ^{二十九} ^{三十} ^{三十一} ^{三十二} ^{三十三} ^{三十四} ^{三十五} ^{三十六} ^{三十七} ^{三十八} ^{三十九} ^{四十} ^{四十一} ^{四十二} ^{四十三} ^{四十四} ^{四十五} ^{四十六} ^{四十七} ^{四十八} ^{四十九} ^{五十} ^{五十一} ^{五十二} ^{五十三} ^{五十四} ^{五十五} ^{五十六} ^{五十七} ^{五十八} ^{五十九} ^{六十} ^{六十一} ^{六十二} ^{六十三} ^{六十四} ^{六十五} ^{六十六} ^{六十七} ^{六十八} ^{六十九} ^{七十} ^{七十一} ^{七十二} ^{七十三} ^{七十四} ^{七十五} ^{七十六} ^{七十七} ^{七十八} ^{七十九} ^{八十} ^{八十一} ^{八十二} ^{八十三} ^{八十四} ^{八十五} ^{八十六} ^{八十七} ^{八十八} ^{八十九} ^{九十} ^{九十一} ^{九十二} ^{九十三} ^{九十四} ^{九十五} ^{九十六} ^{九十七} ^{九十八} ^{九十九} ^百

鳴る月神とつらつらと
 雲のあう長月や竹まのみ
 住吉所の敷向あやめり
 十月一日寅の時小懸敷向
 あり板敷の神遊は今も絶えぬ
 中く思はる物に
 有印の物語は
 未世

上
 隔ちた社の麻穂を
 ありくまや年いまふり
 ありくまや年いまふり
 神遊の舞秋の袖は
 今より社壇の四よ入に
 時

宝殿^{ホト}雲々の月^{ツキ}を^カ種^{タマ}く^ト玉^{タマ}の^ニ河^{カハ}の^ニ殿^ツ子^コ
^ツき^カの^ニ河^{カハ}の^ニ殿^ツ子^コは^カ神^{カミ}の^ニ是^{コト}の^ニ云^ク
の^ニみ^タを^カつ^トた^テの^ニ殿^ツを^カし^テれ^ド佛^{ブツ}法^{ポフ}を^カ守^ルり
は^カ神^{カミ}本^ホ地^チ下^カ羅^ラ刺^シの^ニ化^ケ現^{ゲン}あり^テま^カ密^{ミツ}厳^{ゲン}
義^ギの^ニ鹿^{シカ}の^ニ女^{メノ}神^{カミ}の^ニ神^{カミ}の^ニも^カの^ニも^カの^ニ也^{ナリ}
玉^{タマ}の^ニ糸^{イト}を^カり^テも^カ自^ミの^ニ杖^{ジョウ}を^カせ^ド夜^ヨの^ニ遊^ユの^ニ
神^{カミ}樂^{ガク}の^ニ糸^{イト}を^カり^テも^カ自^ミの^ニ杖^{ジョウ}を^カせ^ド夜^ヨの^ニ遊^ユの^ニ

の^ニ神^{カミ}の^ニお^ノび^トの^ニ雲^{クモ}の^ニま^カま^カの^ニ神^{カミ}
の^ニ頭^{アタマ}の^ニ糸^{イト}を^カり^テも^カ自^ミの^ニ杖^{ジョウ}を^カせ^ド夜^ヨの^ニ遊^ユの^ニ
の^ニ河^{カハ}の^ニ殿^ツ子^コは^カ神^{カミ}の^ニ是^{コト}の^ニ云^ク
の^ニみ^タを^カつ^トた^テの^ニ殿^ツを^カし^テれ^ド佛^{ブツ}法^{ポフ}を^カ守^ルり
は^カ神^{カミ}本^ホ地^チ下^カ羅^ラ刺^シの^ニ化^ケ現^{ゲン}あり^テま^カ密^{ミツ}厳^{ゲン}
義^ギの^ニ鹿^{シカ}の^ニ女^{メノ}神^{カミ}の^ニ神^{カミ}の^ニも^カの^ニも^カの^ニ也^{ナリ}
玉^{タマ}の^ニ糸^{イト}を^カり^テも^カ自^ミの^ニ杖^{ジョウ}を^カせ^ド夜^ヨの^ニ遊^ユの^ニ
神^{カミ}樂^{ガク}の^ニ糸^{イト}を^カり^テも^カ自^ミの^ニ杖^{ジョウ}を^カせ^ド夜^ヨの^ニ遊^ユの^ニ

中^ニ反^ル遊^ル神^ノ祭^ルり^しも^もさ^らも^も頭^ノ
 一^ニト^クハ^シた^ルを^もあ^らむ^も也^也
 住^ス古^クリ^ク海^ノ 御^ノ行^ハ熱^ク田^ノ不^レ
 二^ニ千^ニ世^ノ界^ノ法^ノ神^ノの^ノ實^ノ不^レ敷^ク向^テ上^ニ所^ノ也^也
 の^ノ小^ノ豆^ノの^ノ油^ノを^もひ^くも^も面^ノ白^クや^も蘇^ノ栗^ノ
 一^ニ海^ノの^ノ時^ノら^もが^もく^も笑^ハひ^もく^もも^も時^ノ
 雨^ノの^ノ雲^ノの^ノ沖^ノより^もさ^らも^もて^も吹^ク立^ク波^ノの^ノ海^ノ

龍^ノ王^ノは^も出^ル現^ルや^も 松^ノ是^レハ^も海^ノ龍^ノ也^也
 名^ノ神^ノも^も也^也母^ノも^も毎^年竜^ノ宮^ノら^もり^もで^也
 青^ノの^ノ箱^ノ小^ノ龍^ノを^もし^も神^ノ前^ノに^も持^テ上^ル也^也
 龍^ノ神^ノ則^チあ^らむ^もれ^もた^もく^も浪^ノを^もく^も
 一^ニ潮^ノを^も良^クき^も一^ニ江^ノも^もあ^らむ^も箱^ノを^も封^ス
 一^ニを^も神^ノあ^らむ^もの^ノ湯^ノ作^ルも^も
 日^ノ上^ニ時^ノ竜^ノ神^ノ箱^ノを^もく^も息^ノ也^也

子^ニ龍^ノを^シ九^ノ出^シ神^ノ有^リより^シを^シ申^ス
 海^ノ陸^ノを^シ代^シの^ノ宮^ノあり^シが^シ見^ル
 ぐ^ニら^ニう^ニ邪^ノカ^ニ上^リ四^ノ海^ノあり^シに^シ國^ノ治^ルを^シく^ニ
 所^ニ五^ノ穀^ノ出^シ乾^ノ福^ノ壽^ノ海^ノより^シを^シく^ニ
 君^ノ守^ルを^シく^ニみ^ルを^シく^ニみ^ルを^シく^ニみ^ルを^シく^ニ
 神^ノと^シに^シ見^ルを^シく^ニ拂^ル神^ノあり^シの^ノ
 あり^シま^ニあり^シの^ノ龍^ノ神^ノ平^ノ地^ノに^シ

時^ノ浪^ノを^シく^ニみ^ルを^シく^ニみ^ルを^シく^ニみ^ルを^シく^ニ
 神^ノの^ノ虚^ノ空^ノに^シ交^ル満^ルを^シく^ニみ^ルを^シく^ニ
 あり^シの^ノ龍^ノ神^ノの^ノ海^ノ中^ノに^シ入^ルを^シく^ニみ^ルを^シく^ニ
 あり^シの^ノ龍^ノ神^ノの^ノ海^ノ中^ノに^シ入^ルを^シく^ニみ^ルを^シく^ニ

漢武帝

東方朔

曼精

去雷声

ツヨク

東方朔

他リ物也
口明アリ

西ノ所ヤ四時ウリリ屋トクシテ
 夏ノ時ハハモヤ秋ノ時ハハモ
 冬ノ時ハハモヤ春ノ時ハハモ
 日ノ光ノ多クト云クモアリ
 帝ノ御
 殿ハモウラテンゴアブウ花ノ袖ウラ
 七王ノ皇令銀ノ殿ム君ヲウ
 多ク宮軍ヲウク
 多ク居ル

去雷声

ツヨク

東方朔

作リ物也
口明アリ

面^ニ一^ニ如^ニや^ニ四^ニ時^ニう^ニり^ニ屋^ニま^ニく^ニし^ニて^ニ登^ニ
 ぶ^ニ夏^ニく^ニれ^ニ入^ニう^ニい^ニも^ニや^ニ初^ニ秋^ニの^ニ七^ニ日^ニ七^ニ女^ニ
 の^ニ星^ニの^ニあ^ニお^ニと^ニ急^ニぐ^ニま^ニり^ニ帝^ニの^ニ御^ニ
 殿^ニは^ニま^ニう^ニう^ニて^ニん^ニご^ニあ^ニづ^ニう^ニ花^ニの^ニ袖^ニさ^ニう^ニぬ^ニ
 七^ニ空^ニの^ニ皇^ニ令^ニ銀^ニの^ニ蔵^ニみ^ニ一^ニ君^ニを^ニう^ニり^ニよ^ニ
 なる^ニ宮^ニ軍^ニを^ニう^ニく^ニわ^ニる^ニと^ニ居^ニ所^ニ

東

未連

未連

未連

よ美々守中山 ベニ子の本 けり 美々守 けり 美々守 けり 美々守 けり 美々守 けり 美々守 けり

此國乃傍 カマハラ けり 美々守 けり 美々守 けり 美々守 けり 美々守 けり 美々守 けり

君賢まは 美々守 けり 美々守 けり 美々守 けり 美々守 けり 美々守 けり 美々守 けり

美々守 美々守 けり 美々守 けり 美々守 けり 美々守 けり 美々守 けり 美々守 けり

美々守 美々守 けり 美々守 けり 美々守 けり 美々守 けり 美々守 けり 美々守 けり

美々守 美々守 けり 美々守 けり 美々守 けり 美々守 けり 美々守 けり 美々守 けり

美々守 美々守 けり 美々守 けり 美々守 けり 美々守 けり 美々守 けり 美々守 けり

お守 美々守 けり 美々守 けり 美々守 けり 美々守 けり 美々守 けり 美々守 けり

美々守 美々守 けり 美々守 けり 美々守 けり 美々守 けり 美々守 けり 美々守 けり

美々守 美々守 けり 美々守 けり 美々守 けり 美々守 けり 美々守 けり 美々守 けり

美々守 美々守 けり 美々守 けり 美々守 けり 美々守 けり 美々守 けり 美々守 けり

美々守 美々守 けり 美々守 けり 美々守 けり 美々守 けり 美々守 けり 美々守 けり

美々守 美々守 けり 美々守 けり 美々守 けり 美々守 けり 美々守 けり 美々守 けり

美々守

美々守

人よつてくたし海探菓仙味年
をゆて終り成道し終りて大聖
と成りてなり給ふとありては仙人
を救ひしもしぬ中めも西王母
と因えし之西王母樂尊皇壽仙
の位現るれはなるなり命れ仙人
と成りて目おしは事とて蘭ケとよら

桃の三千年一度花咲実なり
本乃仙薬と成りて思成あり
今多つて海に且れ社にまゐるも
陽事ありて東方朝雲國にありて
舞事ありて桃実をするも
御壽命長遠しは身も身実なり
一書とて王母と傳りてきく素内申ら

庭上とて...
 細く...
 東方...
 九千歳...
 東三...
 柳代...

上...
 内中...
 白雲...
 乃...
 茶...
 夜冠...
 頭...

五

五

春榮

ワキ有

是ら高橋権頭家^{ゴシノカミ}決^キまて梅^{ウメ}も^シける
 宇治橋^{ウヂハシ}の^ノ合戦^{カセツ}も^モ味方^{ミカタ}打^ウ勝^カつ^ク捕^トる
 名^ナ打^ウと^ト果^ミる^ル夫^ツも^モ因^ユに^ニ海^{ウミ}に^ニ
 中^{ナカ}の^ノ事^{コト}も^モ申^{マウ}す^ル事^{コト}も^モ守^{マモ}る^ル
 申^{マウ}す^ル事^{コト}も^モ申^{マウ}す^ル事^{コト}も^モ申^{マウ}す^ル
 洗^チ申^{マウ}す^ル事^{コト}も^モ申^{マウ}す^ル事^{コト}も^モ申^{マウ}す^ル

橋より申す。事なく對面なる

ふく^{トモ}長^{ツク}の^{トモ}より^{トモ}乗^{ツク}の^{トモ}申^{ツク}の^{トモ}因^{ツク}の^{トモ}

行^{ツク}の^{トモ}橋^{ツク}殿^{ツク}より^{トモ}行^{ツク}の^{トモ}殿^{ツク}より^{トモ}方^{ツク}の^{トモ}行^{ツク}

の^{トモ}由^{ツク}より^{トモ}頼^{ツク}たる^{トモ}人^{ツク}の^{トモ}方^{ツク}の^{トモ}方^{ツク}の^{トモ}

吾^{ツク}より^{トモ}ね^{ツク}の^{トモ}長^{ツク}の^{トモ}見^{ツク}の^{トモ}長^{ツク}の^{トモ}殿^{ツク}の^{トモ}

の^{トモ}方^{ツク}の^{トモ}高^{ツク}橋^{ツク}殿^{ツク}の^{トモ}目^{ツク}の^{トモ}

見^{ツク}の^{トモ}方^{ツク}の^{トモ}見^{ツク}の^{トモ}方^{ツク}の^{トモ}方^{ツク}の^{トモ}

由^{ツク}の^{トモ}方^{ツク}の^{トモ}得^{ツク}有^{ツク}の^{トモ}方^{ツク}の^{トモ}

方^{ツク}の^{トモ}因^{ツク}の^{トモ}方^{ツク}の^{トモ}方^{ツク}の^{トモ}方^{ツク}の^{トモ}

方^{ツク}の^{トモ}方^{ツク}の^{トモ}頼^{ツク}の^{トモ}方^{ツク}の^{トモ}

痛^{ツク}の^{トモ}申^{ツク}の^{トモ}方^{ツク}の^{トモ}方^{ツク}の^{トモ}

方^{ツク}の^{トモ}方^{ツク}の^{トモ}方^{ツク}の^{トモ}方^{ツク}の^{トモ}

方^{ツク}の^{トモ}方^{ツク}の^{トモ}方^{ツク}の^{トモ}方^{ツク}の^{トモ}

方^{ツク}の^{トモ}方^{ツク}の^{トモ}方^{ツク}の^{トモ}方^{ツク}の^{トモ}

もまふりきさとも見^ミ面^{オモ}たれ家^{イヘ}入^{イリ}と
く^ク子^コ弟^{テイ}めり^メも^モ能^ノく^ク流^{リウ}人^{ジン}去^クらる^ル

一^{イツ}可^コ子^シ流^{リウ}さ^サれ^レた^タ為^ニ子^コ弟^{テイ}と^トあ^アり
た^タら^ラよ^ヨ付^ツく^クは^ハ程^{チヤウ}子^シ弟^{テイ}と^トあ^アり

ニ^ニ子^シ弟^{テイ}と^トあ^アり^ゼ思^シ入^ニと^トあ^アり^クま^マの^ノた^タ
り^リに^ニあ^アり^セな^ナら^ラぬ^ヌま^マの^ノた^タに^ニあ^アり^セな^ナら^ラぬ^ヌ

よ^ヨ弟^{テイ}の^ノ母^{ハハ}に^ニ申^{マツ}す^スは^ハら^ラぬ^ヌま^マの^ノた^タに^ニあ^アり^セな^ナら^ラぬ^ヌ

の^ノ弟^{テイ}の^ノ母^{ハハ}に^ニ申^{マツ}す^スは^ハら^ラぬ^ヌま^マの^ノた^タに^ニあ^アり^セな^ナら^ラぬ^ヌ

ま^マの^ノ弟^{テイ}の^ノ母^{ハハ}に^ニ申^{マツ}す^スは^ハら^ラぬ^ヌま^マの^ノた^タに^ニあ^アり^セな^ナら^ラぬ^ヌ

の^ノ弟^{テイ}の^ノ母^{ハハ}に^ニ申^{マツ}す^スは^ハら^ラぬ^ヌま^マの^ノた^タに^ニあ^アり^セな^ナら^ラぬ^ヌ

の^ノ弟^{テイ}の^ノ母^{ハハ}に^ニ申^{マツ}す^スは^ハら^ラぬ^ヌま^マの^ノた^タに^ニあ^アり^セな^ナら^ラぬ^ヌ

の^ノ弟^{テイ}の^ノ母^{ハハ}に^ニ申^{マツ}す^スは^ハら^ラぬ^ヌま^マの^ノた^タに^ニあ^アり^セな^ナら^ラぬ^ヌ

の^ノ弟^{テイ}の^ノ母^{ハハ}に^ニ申^{マツ}す^スは^ハら^ラぬ^ヌま^マの^ノた^タに^ニあ^アり^セな^ナら^ラぬ^ヌ

の^ノ弟^{テイ}の^ノ母^{ハハ}に^ニ申^{マツ}す^スは^ハら^ラぬ^ヌま^マの^ノた^タに^ニあ^アり^セな^ナら^ラぬ^ヌ

元受の^{カゴシ}御^{キウ}平と^{カン}威^ノ申^シ申^シ神^イ宗^クの^{ルイ}唐^{ルイ}漢^{ルイ}
 引^テて^レい^ハい^ハに^ニ種^ク直^スま^シの^ル某^キと^キ學^ブ政^ツと
 痛^クり^テし^テ事^ノ妙^クの^ル某^キは^ニ子^トと^キ人^ト持^テ
 て^レい^ハさ^シが^ラ治^ス橋^ノ乃^ハ合^シ戦^ムよ^ウさ^シと^ク引^ッ
 げ^テ某^キ學^ブ殿^ノの^ノわ^シり^ノカ^シも^トた^シと^ク引^ッ
 天^ノ眩^シ命^ヲを^シ助^ケる^ノ人^トつ^テ果^シて^モき
^イ逆^シ跡^ヲと^ッて^モ申^ス事^ノ人^トを^シ引^ッて^モき

や^ドら^シ目^ノ油^ヲを^シ右^ニ行^クて^モき
 申^ス事^ノも^シ後^ヲも^シ又^モ録^シ合^シう^リ早^ク
 う^ラり^テ指^シ振^ルと^シい^ハぬ^キな^シ因^トを^シ皆^ク
 味^トも^シに^シ出^ルて^モ痛^クい^ハぬ^キ
 カ^ノい^ハこ^トも^シ某^キ學^ブ政^ツ乃^ハ折^ルた^ニれ^テ申^ス
 あ^まし^由に^シ種^ク直^スか^シら^ぬ
 某^キと^シ日^ヲ始^メ入^リ候^ス人^ト也^{ナリ}
 物^ヲを^シ某^キ學^ブ政^ツ

^{イトレケチ} 切ッ去乃る中あり。同春栄を^{スル}御^ス某
 と^イ流して^早給り人^イ信^イの去りあり。下
 とも^イ目錄あり。其^{カケ}に^イ舞々く^イ同中^イを^イ叶
^イし^イま^イる^イが^イ信^イの去りあり。人^イを^イび^イよ
^{フタクシ}私^イと^イ以^イて^イ某^イと^イ稱^イす。春栄^イを^イ助^イま^イて^イ給
^イふ^イは^イ是^イの^イ心^イあり。一^イ平^イしく^イた^イら^イば
^イ成^イり^イ補^イふ^イに^イて^イか^イり^イふ^イ力^イあり。こ^イの^イ事^イに^イれ^イば

も^イお^イく^イま^イら^イし^イく^イも^イ春^イ栄^イの^イ家^イ及^イと
^{スシテ}刀^イ捨^イり^イ力^イの^イ有^イま^イる^イを^イ報^イす。某^イと^イも
^{イツシヨ}一^イ可^イし^イ流^イして^イ給^イり人^イを^イ信^イの^イ去^イり^イあり
^{ニテ}あ^イり^イし^イま^イる^イ春^イ栄^イ古^イ里^イに^イ送^イり^イ贈^イり^イ人
 づ^イら^イぶ^イお^イ古^イ郎^イなら^イぬ^イの^イ國^イ子^イ海^イ母^イ河^イ子^イ申
 ぞ^イこ^イの^イ心^イあり。ま^イ春^イ栄^イの^イ家^イ及^イ乃^イる^イ報^イり^イあり
 乃^イも^イて^イ報^イく^イる^イ報^イす。法^イを^イ流^イき^イる^イ報^イり^イあり

少々成^{ナル}成^ル子^シは^ハ社^{シヤ}於^{ケル}の^ノ事^{コト}能^ク
 申^ス之^レ是^レ成^ル守^ルの^ノ事^{コト}也^{ナリ}母^ノの^ノ方^カは
 給^フた^ラる^ニも^モも^トの^ノ親^{シヤ}母^ノ音^ノ時^ノ直^ニか^リて^ス
 御^ノ流^ル之^レと^シ能^ク申^ス也^{ナリ}是^レの^ノ文^ノを
 榮^ク之^レ及^テ乃^チか^キあ^リ也^{ナリ}よ^クか^キあ^リぬ
 鳥^ノ羽^ノ玉^ノの^ノ方^カは^ハ志^シ也^{ナリ}女^ノの^ノ事^{コト}を^シま^ス
 所^ノより^シ月^ノ言^ハし^テら^ハと^シ子^ノ節^ノと^シあ^リて^ス

坊^ノの^ノ髪^ヲを^シ榮^クの^ノ事^{コト}を^シま^ス
 事^ノは^ハあ^リて^ス室^ノの^ノ事^{コト}を^シま^ス
 御^ノて^ハは^ハ跡^ノを^シあ^リぬ^ニら^ハこ^トの^ノ事^{コト}を^シま^ス
 下^ノ成^ル人^ノの^ノ子^ノを^シあ^リぬ^ニら^ハこ^トの^ノ事^{コト}を^シま^ス
 母^ノの^ノ方^カは^ハ御^ノの^ノ事^{コト}を^シま^ス
 室^ノの^ノ事^{コト}を^シま^ス
 父^ノ母^ノと^シ悲^シま^スら^ハこ^トの^ノ事^{コト}を^シま^ス
 母^ノの^ノ方^カは^ハ御^ノの^ノ事^{コト}を^シま^ス
 室^ノの^ノ事^{コト}を^シま^ス
 父^ノ母^ノと^シ悲^シま^スら^ハこ^トの^ノ事^{コト}を^シま^ス

一 母を以てて父母の教くはるる
一 十二因縁あり二十五有の沈淪す
一 多るるあてていまま流擲よめり
一 生れ親子皆し向て親のまじり他
一 ありん 教むる羊鹿牛車よりの失
一 宅乃さるしと出づて煩惱業音乃
一 之の繩よ懸きさるるるれりよ

一 名を以てて流擲すて人回界よまじり
一 一 離きしと云因果經と
一 一 報の報教の縁だるる車輪
一 一 神人とて支つるれり
一 一 吾も女とて生れしと云海より流
一 一 法に舟楫とてしるるる
一 一 神國と云わ

各々^{ハシ}海^{ツラ}へ^ニま^リに^テ河^{ツツ}使^ヒり^ハ若^カ宮^ヤの^ニあ^リ
 當^ニ申^セに^テ内^ニ入^ル七^ニ人^ノ之^ハ行^キま^リ
 依^テ皇^ノ殿^ニを^シ七^ニ人^ノと^シて^モあ^リぬ^レ
 志^シく^テ先^ニ濟^スし^テ行^ク若^ク文^ヲ別^ニ當^ル乃^チ是^レ
 う^レ内^ニ入^ル七^ニ人^ノ之^ハ行^キま^リ乃^チ一^ニ番^トま^リ
 別^ニ當^ル乃^チ是^レ乃^チ一^ニ番^トま^リ乃^チ一^ニ番^トま^リ
 乃^チ一^ニ番^トま^リ乃^チ一^ニ番^トま^リ乃^チ一^ニ番^トま^リ乃^チ一^ニ番^トま^リ

皇^ノ殿^ニを^シ七^ニ人^ノと^シて^モあ^リぬ^レ
 志^シく^テ先^ニ濟^スし^テ行^ク若^ク文^ヲ別^ニ當^ル乃^チ是^レ
 う^レ内^ニ入^ル七^ニ人^ノ之^ハ行^キま^リ乃^チ一^ニ番^トま^リ
 別^ニ當^ル乃^チ是^レ乃^チ一^ニ番^トま^リ乃^チ一^ニ番^トま^リ
 乃^チ一^ニ番^トま^リ乃^チ一^ニ番^トま^リ乃^チ一^ニ番^トま^リ乃^チ一^ニ番^トま^リ

アツハシ
ツメル
イッセキ
ツガ
タキ
子
クハ
ウチ

一弘とほききしるふ人言すけのくくし

ふたつとく
シテ
シウ
ダイ

の更富上吉日も同家子侍りて重侍

のたりのま算成りなり重て千秋万歳

表はけびり重の敷も口もや新白も

信豆の二嶋の神代も次ぎりて手けり

初めはたつとこり限りて表辰合りて

けむを云そめたつて行はゆき重の

多めりいま愛もか物よりて親し子れ定

のやもは言れ秋万歳の舞し油籠り

まはるり休もらよそとらひ

心方歳樂
ハ指真が目出あつた

まはるり指舞人
初言り歳樂
年
東路

おさうがそとまのうさるあて

のらぬぬの山素松の成るの葉の影を
 飲うれば縁がく方々の縁を
 竹の親子の睦みよの只才の才と
 行きのくしりまの親子兄弟と
 ぬのまはる君の守りては宮を
 利生とはね親子兄弟のしりま
 打つては鏡念ふもをりまに



